中沢中

自ら学ぶ力の育成
～自己調整学習を通して～

（２年計画の１年次）

校長　　瀧野　貢二

１　研究主題について

本研究主題は、昨年度までの研究主題「主体的に学習する生徒の育成～焦点化、動作化、視覚化、共有化～」にもとづく３年間の研究を経て、本年度新たに設定した。昨年度までの研究は、教師側の授業技術の向上を目指して行われたものであり、その結果、授業技術向上のためのさまざまな手法を教師間で共有できたので、それを各教師が実践しつつ、今年度は生徒の学習意欲や学習方法にダイレクトに関与していく方法として「自己調整学習」の考え方に基づいた研究をしていくこととした。

「自己調整学習」は、「予見段階（課題を分析し、計画を立てる）」「遂行段階（実践しながら自分で自分を観察する）」「自己内省段階（自己評価と結果と原因の分析など）」の「循環的段階モデル」と呼ばれるプロセスにのっとった学習方法であるが、本校では学習に限らず、行事や一年間の目標などにも「自己調整学習」のプロセスを取り入れ、「予見・遂行・自己内省」の一連の流れを繰り返すことで、生徒の「自ら学ぶ力の育成」に迫っていきたい。

２　研究のねらい

「自己調整学習」の考え方の中の「循環的段階モデル」という学びのプロセスを、学習を含めた諸活動に取り入れていくことで、生徒自身が自分の学びを計画し、実践し、自己評価して次につなげていく姿勢を身につけることを目指す。その姿勢を身につけさせることが「自ら学ぶ力の育成」であり、それによって諸活動に向かう際の意欲や主体性を高めることができるのではないかと考えている。そのためには、ただこのプロセスを取り入れるだけではなく、教師が積極的に模範を示す「モデリング」の役割を果たす必要がある。生徒がより効果的に、意欲的に学べるよう、よりよい計画の在り方や学び方、適切な自己評価の在り方などを示し、導いていくための方法を研究し、「自ら学ぶ力の育成」に迫っていきたい。今年度は１年目であるので、どの行事や学習活動の中で「自己調整学習」が取り入れられるのか、また、教師の効果的な導き方などを研究し、年２回行うＱＵの学習意欲に関するアンケートや、学校独自で作成する学習意欲に関するアンケート結果の分析などを行い、生徒の変容を見ていきたい。

３　研究仮説

「自己調整学習」の「予見・遂行・自己内省段階」のプロセスを、学習を含めた諸活動に繰り返し取り入れていくことで、生徒自身に自然にそのプロセスが身についていくと考える。また、そのプロセスを形だけ導入するのではなく、各段階において教師が良い計画の立て方、学習の仕方、適切な自己評価の在り方などを示すことで、生徒がよりよい方法を学び、選べるように導いていくことができる。その結果、自分で自分の学びをコントロールし、より良い方法を選びながら意欲的に学ぶ生徒の育成が果たされると考える。

４　研究内容

(1) 「自己調整学習」のプロセスを諸活動に取り入れていくタイミングやワークシートの在り方を研究する。
(2) 課題解決のためにどんな力が必要とされ、どんな考え方や学習方法があるのかを生徒に明示できるように、教材研究を徹底する。
(3) 生徒の「予見・遂行・自己内省」の様子を見守り、生徒の意欲を高めるためのアドバイスのタイミングや在り方を研究する。

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	授業研究等
４	５	第１回校内研……校内研テーマの確認「自己調整学習」について
５	２１	第２回校内研……「自己調整学習」の授業への取り入れ方について
５	２６	第３回校内研……「自己調整学習」に基づいた教材研究
６	４	ＪＳ中学校公開授業
８	４	第５回校内研……「自己調整学習」を取り入れた授業実施予定
８～９月		授業参観月間
１０	５	教育指導課・センター訪問
１２	８	第８回校内研……「自己調整学習」（教科の授業）の実践報告と課題
１	２６	第９回校内研……今年度の研究のまとめと次年度に向けての協議

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
４	２８	臨時校内研……発達障害について
６	３０	第４回校内研……ＱＵ①（６月実施）のアンケート結果分析と考察
９	２９	第６回校内研……一人一台端末研修会（オンライン）
１１	１７	第７回校内研……食育発表会に向けての検討・確認
１１	２４	ＪＳ情報交換会（小中の実態把握と今後の取り組みについて）
１	２６	第９回校内研……ＱＵ②（１１月実施）のアンケート結果分析と考察

６　研究の成果

(1) 各種アンケート（自尊感情アンケート―そばセット―・ＱＵ・自己調整学習アンケート）の分析を行い、様々な視点からの生徒理解を深め、日々の指導に役立てることができた。

(2) 自己調整学習の流れを学校行事に取り入れ、目標設定から実行、振り返りという作業を毎日繰り返した結果、行事への一人一人の参加意識が高まり、行事後の達成感を感じる生徒が多くなった。

(3) 相互授業参観月間に各教科で自己調整学習を取り入れた授業を行い、授業を実践した感想と参観した感想とをまとめ、その成果と課題を教師間で共有できた。その結果、課題が明確になり、次年度の取り組みの工夫すべき点を把握することができた。

(4) 各種アンケートの分析では、6月と11月とを比べると3年生の数値がどのアンケートでも伸びており、学習意欲や自尊感情が高まっていると判断できる。1、2年を含めた全校集計を見てみると、「自尊感情アンケート―そばセット―」（6月・11月実施）では、６月に比べて11月の数値において、18項目中10項目で上昇が見られた（数値が高いほど自尊感情が高い状態を示す）。また、「自己調整学習アンケート」では、意欲を図る項目で数値が上昇していた。以上の結果を総合して考えると、自己調整学習の流れを教育活動に取り入れたことが、生徒の学習意欲や自尊感情を高めた一つの要因になっているのではないかと推測できる。

７　研究の課題

(1) 自己調整学習を教科の学習に取り入れようとしたときに、課題を分析したり、目標を設定し、学習後に振り返るという一連の流れに多くの時間を割かれるという問題が、第８回校内研の話合いの中で挙げられた。次年度に向けて、少ない授業時数の中で、どのタイミングで、どの教材で、いかに効率的に自己調整学習を導入していくかを模索しなければならない。

(2) 教師側が自己調整学習に対する理解を深め、自己調整学習を進めていくための様々な力を向上させていく必要性がある。本校の校内研では自己調整学習の流れを諸活動の中で繰り返すことによって、そのプロセスを生徒が自然に身につけることを目指しているが、そもそも、「自己内省」自体を面倒くさがり、自己内省が十分にできていない生徒がいるように見受けられる。そのような生徒への指導・支援の在り方を模索しり、また、目標を達成するための様々な手法を示す「モデリング」の役割を担う教師側の指導・支援のテクニックを向上させていかなければならない。

（記入者　　宮重　真由美）